

第2回東北被災地語り部フォーラム2019 開催

～あの日から10年・100年・1000年先の未来へ みんなが語り部～

南三陸ホテル観洋（株式会社阿部長商店、本社：宮城県気仙沼市、代表：阿部泰浩）は、2019年2月24日（日）、25日（月）の2日間にわたって、第2回東北被災地語り部フォーラム2019を開催いたします。

東日本大震災から8年が経過しようとしている今、それぞれの語り部が伝え続ける思いと情熱は、災害伝承だけでなく、被災地から復興の情報発信も行い、地域の交流人口を生む原動力になり、語り部果たす役割と責任はさらに大きくなっています。伝えたいことが増えてくると同時に、伝えることを絶やしてはいけないという気持ちも強くなり、語り部自身の学びの場を作ること、地域間で情報共有し連携発展させていくことや、持続可能な環境づくりを考える必要性が今後さらに高まっています。今だからこそ、東日本大震災から得た学びから何を伝えるかを考える必要があります。各地域の住民・民間・関係団体・行政等が一体となり、“語り部は特別な存在でなく、誰もが語り部”になり、その繋がりが大きな力となって未来の希望となるように、一人でも多くの方がご参加いただく機会になることを願います。“東北から日本中、世界中へ向けて、届け、私たちの思い”をそのままにフォーラムを開催いたします。

なお本フォーラムは、「新しい東北」官民連携推進協議会の「連携セミナー制度」に採択されています。

<記>

■開催日時 : 2019年2月24日（日）

会場 : 南三陸ホテル観洋（宮城県南三陸町黒崎 99-17）
 定員 : 300名（先着順）
 参加費 : 無料 *レセプション（交流会）のみ 3,000円

プログラム

- 11:00～12:30 第1部 震災を風化させないための語り部バス（南三陸ホテル観洋発着）
ホテルのバスで語り部が現地を案内している取組みを紹介（通常コース+高野会館内部のご案内）
- 13:30～13:45 第2部 フォーラム開会セレモニー
開会 阿部 隆二郎（南三陸ホテル観洋代表取締役副社長）
祝辞 高田 昌行 様（国土交通省東北地方整備局長）
- 13:50～15:30 パネルディスカッション「みんなが語り部」～語ることの意味～
 - コメンテーター 結城 登美雄 氏（仙台市・民俗研究家）
 - コーディネーター 高野 登 氏（東京都・人とホスピタリティ研究所代表）
 - パネラー 野村 勝 氏（神戸市・人と未来防災センター語り部）
 - 二橋 守 氏（宮古市・三陸鉄道(株) 旅客営業課長）
 - 山内 明美 氏（仙台市・宮城教育大学准教授）
 - 後藤 一磨 氏（南三陸町・南三陸復興みなさん会代表）
- 15:30～15:40 第4回全国被災地語り部国際シンポジウム in 熊本（平成30年12月8日～10日）開催報告
●報告者：山地 久美子 氏（兵庫県・大阪府立大学客員研究員）
- 15:50～17:20 第3部 分科会
【分科会①】震災遺構の保存と役割を考える
 - コーディネーター 山内 宏泰 氏（気仙沼市・気仙沼リアスアーク美術館館長）
 - パネラー 鈴木 卓也 氏（南三陸町・南三陸ネイチャーセンター友の会代表）
 - 宮本 肇 氏（淡路市・淡路関空ライン副社長）
 - 釘子 明 氏（陸前高田市・陸前高田被災地語り部くぎこ屋代表）

【分科会②】災害を知る世代から知らない世代へつなぐ

- コーディネーター 菅原 貞芳 氏 (気仙沼市・元志津川中学校校長)
- パネラー 南三陸町並びに近隣の小学生・中学生・高校生

【分科会③】「KATARIBE」を世界へ

- コーディネーター 白井 純 氏 (東京都・東芝国際交流財団)
- パネラー フラヴィア・フルコ 氏 (イタリア・富山大学都市デザイン学際特命助

教

鄧 曉嘉 氏 & アジザユニ 氏 (中国&インドネシア・anTV株式会社)
許 好庭 氏 (台湾・国立高尾台一鍵大学)

17:40～18:10 第4部 分科会総括報告・閉会

18:30～20:00 第5部 レセプション (交流会)

20:15～21:30 第6部 語り部座談会<フリートーク座談会形式>

- 座長 山崎 麻里子 氏 (新潟県・公社) 中越防災安全推進機構 中越メモリアル回廊 アンバサダー)
- ゲスト 会津 泉 氏 (東京都・多摩大学情報社会学研究所 主任研究員)
- 宮崎 光男 氏 (群馬県嬬恋村・鎌原観音堂奉仕会)
- 吉田 千春 氏 (気仙沼市・気仙沼おとひめ会代表)
- 北村 弘子 氏 (岩手県・釜石あの日あの時甚句つたえ隊)、他

主催：南三陸ホテル観洋

共催：南三陸町地域観光復興協議会

協力：気仙沼観光コンベンション協会／南三陸ホテル観洋協力会

■開催日時：2019年2月25日(月) オプションプログラム

参加費：無料 *昼食は実費

プログラム

8:45～ ①震災を風化させないための語り部バス (60分)

②疑似喪失体験プログラム (60分)

定員：限定20名

主催：高橋匡美氏 (命の語り部) & 金菱清教授 (東北学院大学)

10:15～ エクスカーション *両コースともにバスは南三陸まで戻ります

①気仙沼コース

南三陸ホテル観洋→気仙沼向洋高校 (車窓見学) →【11:45】命のらせん階段→【12:30～】海の市 (昼食) →【14:00】気仙沼駅 (※海の市で離団も可能)

主催：気仙沼観光コンベンション協会

②石巻・大川小学校コース

南三陸ホテル観洋→【11:00～12:15】大川小学校→【12:45～14:00】石巻元気いちば (昼食) →【14:10】石巻駅 (※元気いちばで離団も可能)

主催：大川伝承の会・小さな命の意味を考える会・三陸観光復興コンシェルジェセンター

※本フォーラムのご取材を行っていただけます。御希望の方は、事前にお問い合わせ先までご連絡ください。

本件に関する報道関係のお問い合わせ先

南三陸ホテル観洋フォーラム事務局

担当：南三陸ホテル観洋 第一営業次長 (企画課長兼務)

伊藤 俊

TEL：0226-46-2442 E-Mail：minamisanriku_somu@kanyo.co.jp

※本プレスリリースは、「新しい東北」官民連携推進協議会の事務局が協議会会員に代わって発信するものであり、内容についてのお問い合わせは、上記お問い合わせ先までお願いいたします。

第2回 東北被災地 語り部フォーラム 2019

～あの日から10年・100年・1000年先の未来へ みんなが語り部～

平成31年 **2/24** 日 **25** 月

■会場／南三陸ホテル観洋

宮城県南三陸町黒崎 99-17 TEL.0226-46-2442

及び南三陸町内・気仙沼市内・石巻市内

参加無料
先着順
(定員300名)



東日本大震災発災から8年目の今、それぞれの語り部が伝え続ける思いと情熱は災害伝承だけでなく被災地から復興の情報発信も行い、地域の交流人口を生む原動力になり、その果たす役割と責任がさらに大きくなってきています。

より伝えたいことが増えてくると同時に、誰もが伝えることを絶やしてはいけないという気持ちも強くなり

語り部自身の学びの場を作ること、地域間で情報共有し

連携発展させていくことや持続可能な環境づくりを考える必要性が今後さらに高まっていきます。

今だからこそ、東日本大震災より得た学びから何を伝えるかを考える。

各地域の住民・民間・関係団体・行政等が一体となり、“語り部は特別な存在でなく、誰もが語り部”になり

その繋がりが大きな力となって未来の希望となるように、一人でも多くの方がご参加頂く機会になることを願います。

東北から日本中、世界中へ向けて、届け、私たちの思い。

▶ パネルディスカッション「みんなが語り部」

- ・コメンテーター／結城 登美雄 氏 (仙台市・民俗研究家)
- ・コーディネーター／高野 登 氏 (東京都・人とホスピタリティ研究所代表)
- ・パネラー／野村 勝 氏 (神戸市・人と未来防災センター語り部)
- 二橋 守 氏 (宮古市・三陸鉄道株 旅客営業課長)
- 山内 明美 氏 (仙台市・宮城教育大学准教授)
- 後藤 一磨 氏 (南三陸町・南三陸復興みなさん会代表)

▶ 第4回全国被災地語り部国際シンポジウムin熊本開催報告

【報告者】山地 久美子 氏 (兵庫県・大阪府立大学客員研究員)

▶ 震災を風化させないための語り部バス

▶ レセプション(交流会) & 語り部座談会



【仙台→南三陸】片道バス運行

(特別便)【仙台駅東口(観光送迎バスのりば)】8:45出発(無料)

※ご利用の方は事前にご予約ください。



▶ 分科会

① 震災遺構の保存と役割を考える

【コーディネーター】山内 宏泰 氏 (気仙沼市・気仙沼アスアーク美術館副館長)

【パネラー】鈴木 卓也 氏 (南三陸町・南三陸ネチャーセンター友の会代表)

宮本 肇 氏 (淡路市・淡路関空ライン副社長)

釘子 明 氏 (陸前高田市・陸前高田被災地語り部くご屋代表)

② 災害を知る世代から知らない世代へつなぐ

【コーディネーター】菅原 貞芳 氏 (気仙沼市・元志津川中学校校長)

【パネラー】南三陸町並びに近隣の小学生・中学生・高校生

③「KATARIBE」(語り部)を世界へ

【コーディネーター】白井 純 氏 (東京都・東芝国際交流財団)

【パネラー】フラヴィア・フルコ 氏 (イタリア・富山大学都市デザイン学部特命助教)

鄧 曉嘉 氏 & アジヤニ 氏 (中国&インドネシア・ariTV(株)スタッフ)

許 好庭 氏 (台湾・国立高雄第一科技大学)

プログラムの詳細・参加お申込み方法は裏面をご覧ください

【主催】南三陸ホテル観洋 【共催】南三陸町地域観光復興協議会

協力: 気仙沼観光コンベンション協会 / 南三陸ホテル観洋協力会

■ホテル観洋ホームページ URL ▶ <https://www.mkanyo.jp/> (フォーラムの詳細を随時UPいたしますのでご覧ください。)